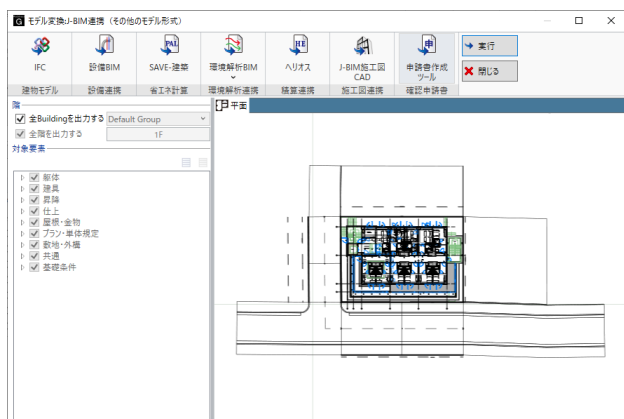


連携資料

申請書作成ツール連携



1 申請書作成ツールへの連携 ____ 2

1-1 連携ファイルの出力 _____ 2

1-2 連携ファイルの読み込み・編集 _____ 3

2 GLOOBE から連動する情報 __ 5

3 申請提出後、 内容に変更があった場合 ____ 9



1 申請書作成ツールへの連携

日本 ERI 株式会社の建築確認申請書作成ツールに、GLOOBE のモデルから計算した階数や床面積、建蔽率などの建物情報を出力して、確認申請書を作成することができます。

ここでは、GLOOBE から連携ファイルへの出力と申請書作成ツールでの読み込みについて確認しておきましょう。

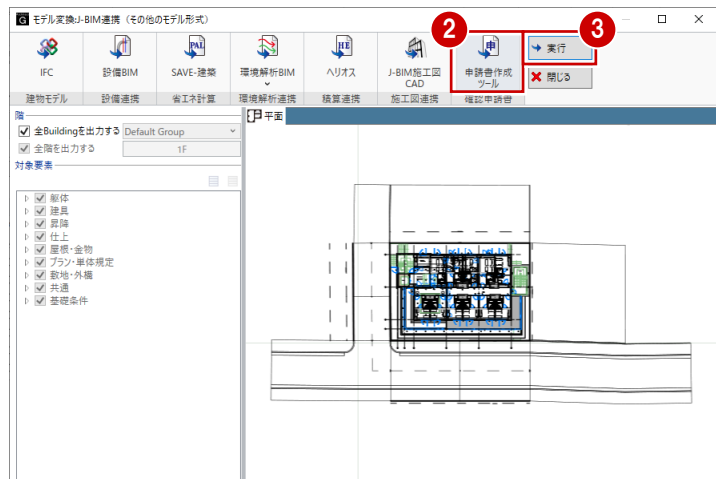
1-1 連携ファイルの出力

GLOOBE でモデルデータを開き、連携ファイル (.rctexp) へ出力しましょう。

① GLOOBE の「ホーム」タブをクリックして、「J-BIM 連携」を選びます。

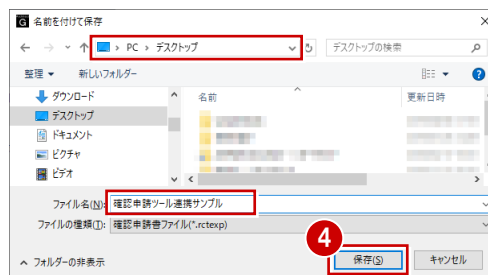


② 「申請書作成ツール」をクリックします。



③ 「実行」をクリックします。

④ 出力先のフォルダを確認し、ファイル名を入力して「保存」をクリックします。



⑤ 確認画面で「OK」をクリックします。連携ファイルが出力されます。

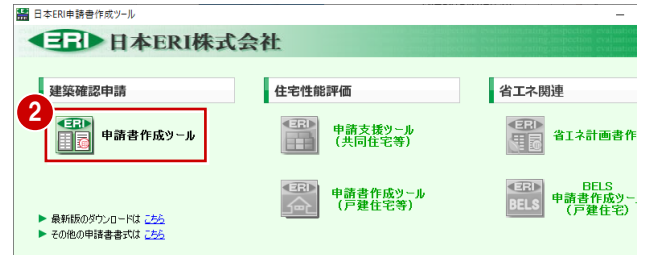


1-2 連携ファイルの読み込み・編集

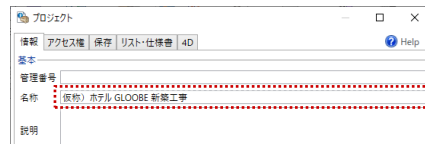
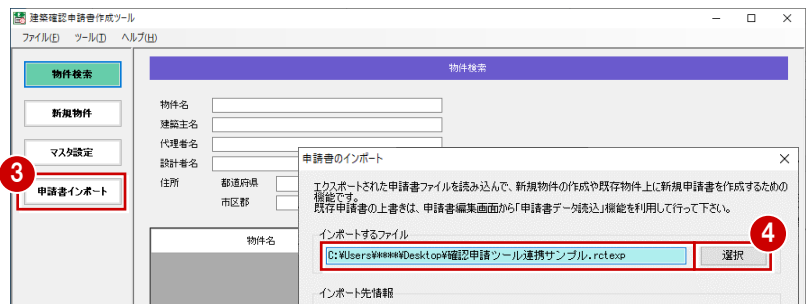
日本 ERI 株式会社の確認申請書作成ツールを開いて、連携ファイル (.rctexp) を読み込み、申請書を編集しましょう。

連携ファイルを読み込む

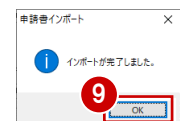
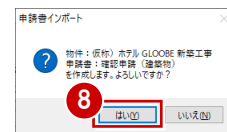
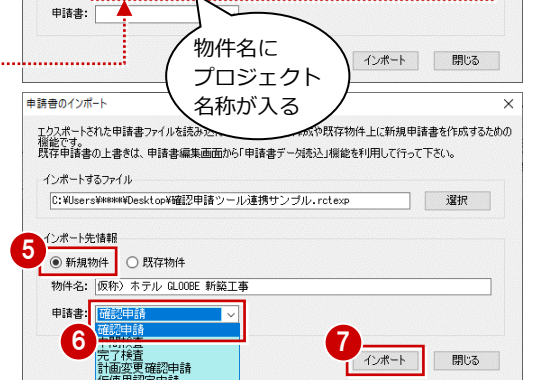
- 1 デスクトップ上の「日本 ERI 申請書作成ツール」のアイコンをダブルクリックします。
- 2 メニューから「建築確認申請」の「申請書作成ツール」をクリックします。



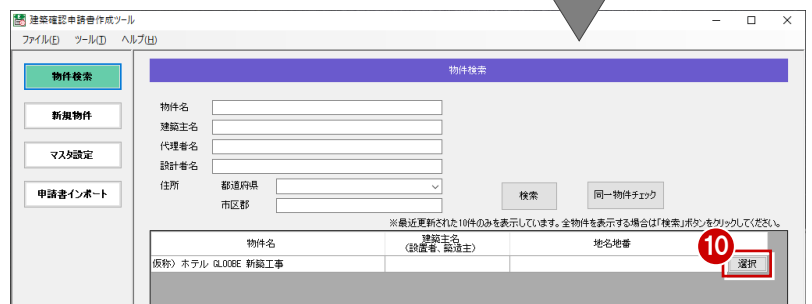
- 3 「申請書インポート」をクリックします。
- 4 「選択」をクリックして、GLOBE から出力した連携ファイルを指定します。「物件名」にプロジェクトの名称が入ります。



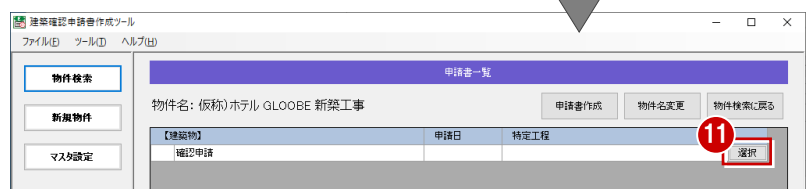
- 5 「新規物件」をクリックします。
- 6 「申請書」で「確認申請」を選びます。
- 7 「インポート」をクリックします。
- 8 確認画面で「はい」をクリックします。
- 9 完了の確認画面で「OK」をクリックします。物件一覧に追加されます。



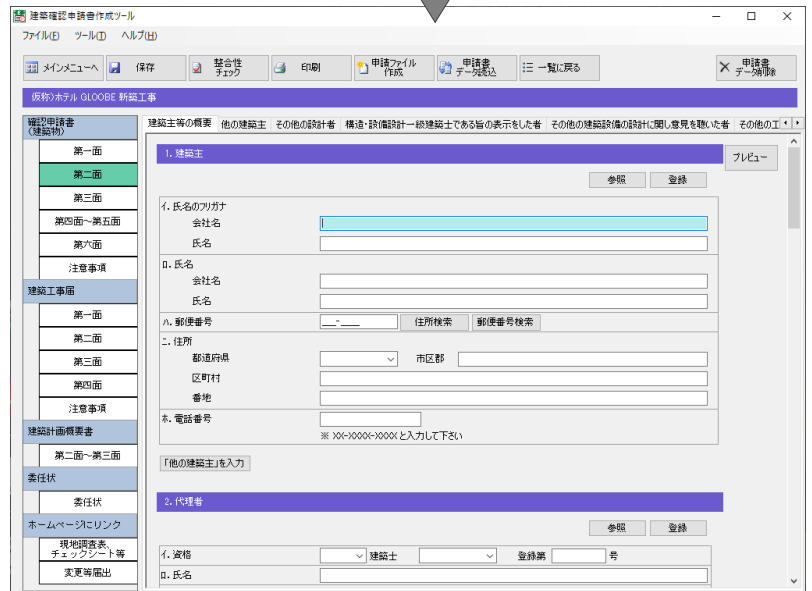
- 10 申請書を作成する物件の「選択」をクリックします。その物件の申請書一覧が表示されます。



- 11 確認・編集する申請書の「選択」をクリックします。申請書の編集画面が開きます。



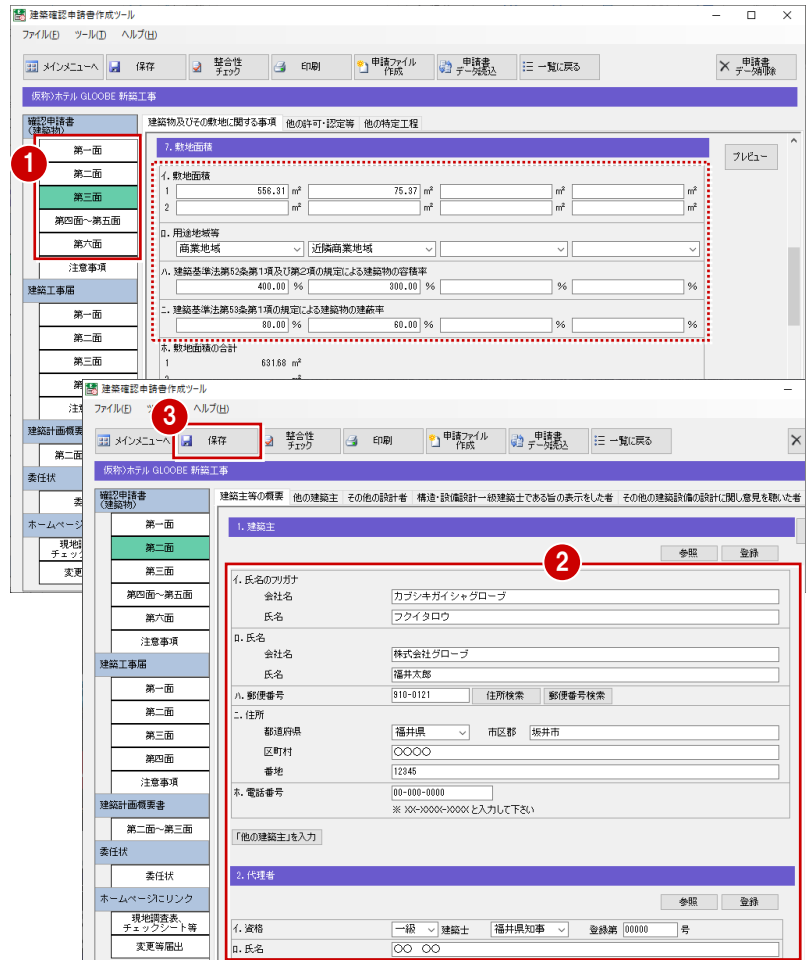
1 申請書作成ツールへの連携



申請書を編集する

- 1 確認申請書の面を切り替えて、GLOOBE から連動した情報を確認します。

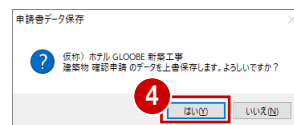
⇒ 詳しくは2章を参照



- 2 申請書作成ツールの操作に従って、その他の項目を入力します。

- 3 申請書の編集が終了したら、「保存」をクリックします。

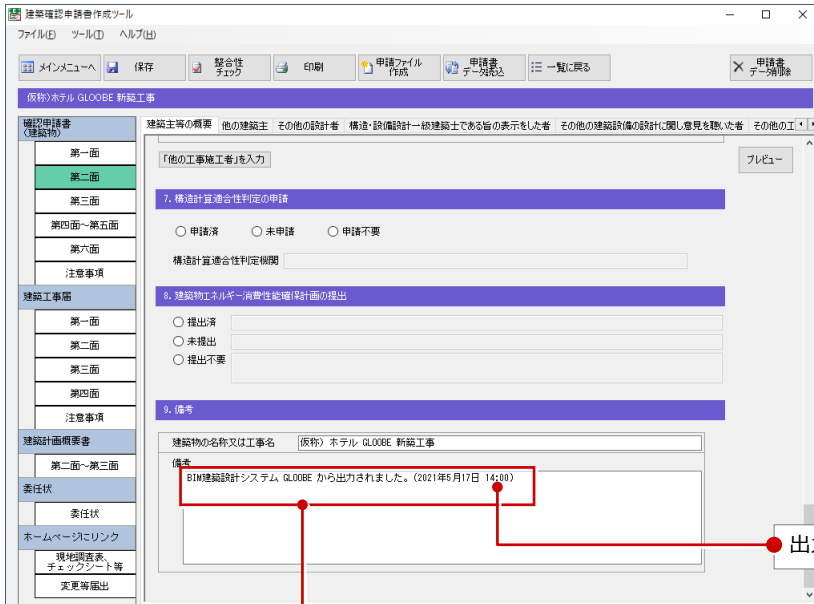
- 4 確認画面で「はい」をクリックします。
- 5 完了の確認画面で「OK」をクリックします。



2 GLOOBE から連動する情報

ここでは、GLOOBE から確認申請書に連動する項目について解説します。

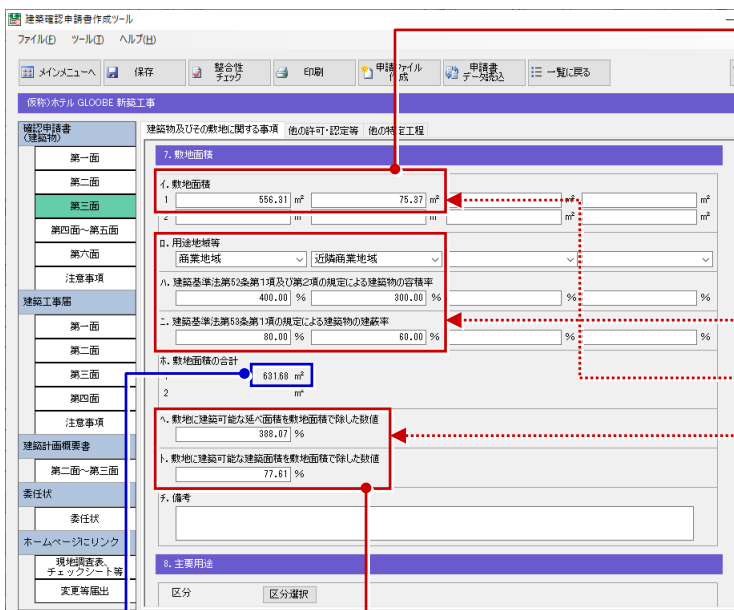
第二面



出力を開始した日付時刻になります。

GLOOBE から rctexp ファイルを新規に出力したとき、「備考」欄にこのメッセージを書き込みます。既存の rctexp ファイルを更新した場合、最後の言葉は「出力されました」→「更新されました」になります。⇒ P.11

第三面



申請書作成ツールが自動的に計算・表示します。

「申請面積」の「容積率・建蔽率限度確認」の「敷地全体の限度」の値が入ります。

「申請面積」の「敷地面積」で表示される面積が入ります。「容積率・建蔽率限度確認」の「対象敷地面積」も同じです。

敷地面積	
商業地域	556.31 m ²
近隣商業地域	75.37 m ²

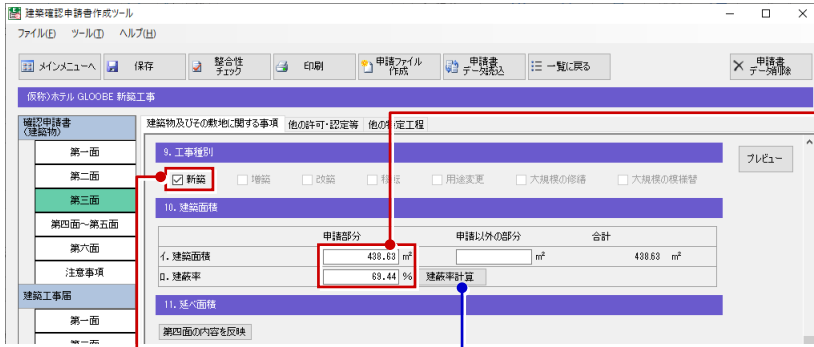
用途地域のプロパティの値が入ります。敷地境界・地盤にかかる用途地域が複数ある場合は、それぞれの数値が入ります。

用途地域ごとの原簿		敷地全体の原簿	
用途地域種別	商業地域	用途地域種別	近隣商業地域
容積率	400.00 %	容積率	300.00 %
建蔽率	80.00 %	建蔽率	80.00 %
対象敷地面積	556.31 m ²	対象敷地面積	75.37 m ²
敷地全体の原簿		敷地全体の原簿	
容積率	(400.00 × 556.31 + 300.00 × 75.37) ÷ 631.68 = 388.07 %	容積率	(400.00 × 556.31 + 300.00 × 75.37) ÷ 631.68 = 388.07 %
建蔽率	(80.00 × 556.31 + 60.00 × 75.37) ÷ 631.68 = 77.61 %	建蔽率	(80.00 × 556.31 + 60.00 × 75.37) ÷ 631.68 = 77.61 %

なお、前面道路幅員が 12m 未満の場合は、道路幅員制限による容積率上限と指定容積率を比較して、小さい方の値が容積率として適用されます。

用途地域種別		近隣商業地域	
容積率	400.00 %	容積率	300.00 %
建蔽率	80.00 %	建蔽率	80.00 %
対象敷地面積	556.31 m ²	対象敷地面積	75.37 m ²
容積率の計算		容積率の計算	
指定容積率	400.00 %	指定容積率	360.00 %
前面道路幅員	9.00 m	前面道路幅員	9.00 m
道路幅員制限	9.00 m × 40 = 360.00 %	道路幅員制限	9.00 m × 40 = 360.00 %

※ 道路幅員制限を容積率として適用



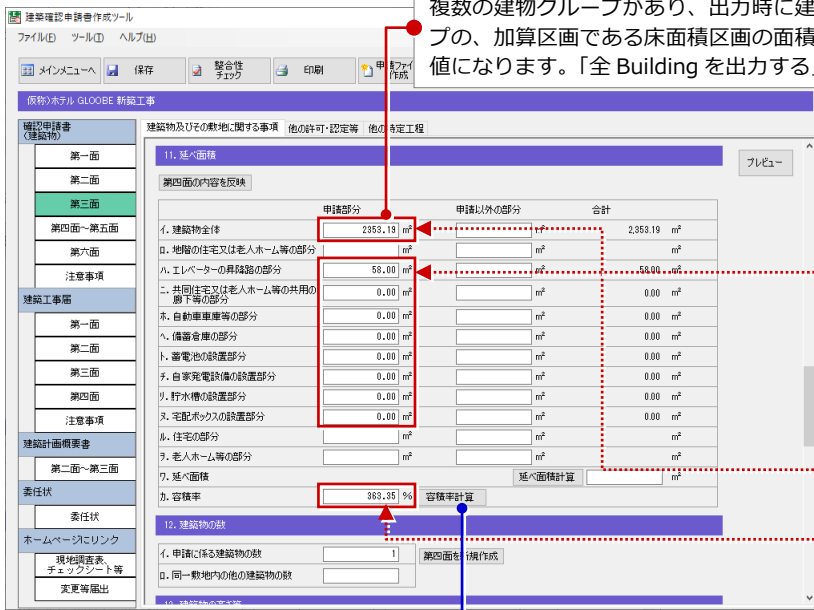
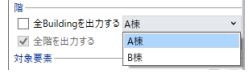
現状は、新築限定です。

「建蔽率計算」をクリックすると建蔽率を再計算します。GLOBE と申請書作成ツールでは扱う数値の丸めが異なるため、再計算すると違う値になることがあります。

「申請面積」の「建築面積・建蔽率確認」の計算結果が入ります。



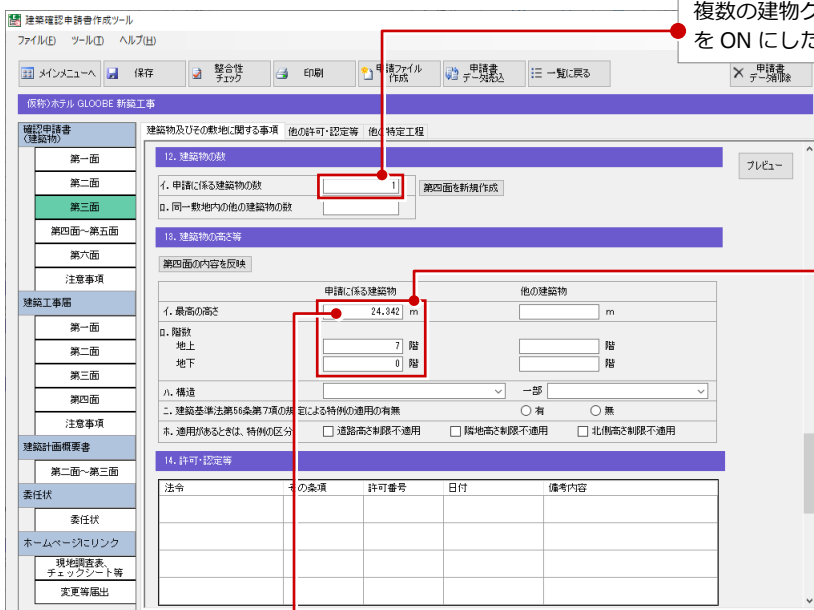
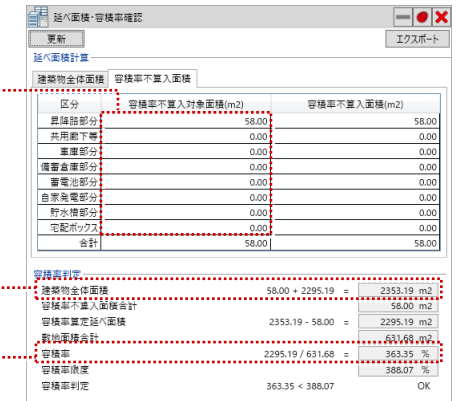
複数の建物グループがあり、出力時に建物グループを選択した場合は、建物グループごとの建築面積になります。



「容積率計算」をクリックすると容積率を再計算します。GLOBE と申請書作成ツールでは扱う数値の丸めが異なるため、再計算すると違う値になることがあります。

「申請面積」の「延べ面積・容積率確認」の計算結果が入ります。

複数の建物グループがあり、出力時に建物グループを選択した場合は、選択した建物グループの、加算区画である床面積区画の面積合計から減算区画である床面積区画の面積を引いた値になります。「全 Building を出力する」の場合は、「建築物全体面積」の値が入ります。



GLOBE の「オプション (CAD 環境)」にある「表記法設定」の「寸法」の「距離」の設定で丸めた値が連携します。ただし、申請書作成ツールでは m で小数桁 3 までの表記になります。

「申請面積」の「階数・高さ確認」の結果が入ります。



複数の建物グループがあり、出力時に「全 Building を出力する」を ON にした場合は、それぞれの項目で最大の値になります。

第四面～第五面

複数の建物グループがある場合、「全 Building を出力する」を ON にするとすべての建物グループが棟として出力されます。ただし、延べ面積が 10 m²以内の建物グループは出力されません。

この画面では、「全 Building を出力する」オプションが ON に設定されています。また、「全棟を出力する」も ON に設定されています。

第四面（建築物別概要）タブ

建物グループの名称です。

現状は、新築限定です。

「申請面積」の「階数・高さ確認」の結果が入ります。

「昇降機塔等の階の数」は、階算入しない（水平投影面積が建築面積の 1/8 以内の）PH 階の数としています。

GLOOBE の「オプション (CAD 環境)」にある「表記法設定」の「寸法」の「距離」の設定で丸めた値が連携します。ただし、申請書作成ツールでは m で小数桁 3 までの表記になります。

2 GLOBE から連動する情報

階	階番号	統合階	統合階名	申請部分	申請以外の部分	合計
P	1	<input type="checkbox"/>	PH1	49.00		
F	7	<input type="checkbox"/>	7F	318.50		
F	6	<input type="checkbox"/>	6F	318.50		
F	5	<input type="checkbox"/>	5F	318.50		
F	4	<input type="checkbox"/>	4F	318.50		
F	3	<input type="checkbox"/>	3F	318.50		
F	2	<input type="checkbox"/>	2F	302.50		
F	1	<input type="checkbox"/>	1F	403.19		

「申請面積」の「延べ面積・容積率確認」の「建築物全体面積」タブの面積が入ります。

階	容積率不算入対象面積(m ²)	容積率対象面積(m ²)
R	0.00	0.00
PH1	7.25	41.75
7F	7.25	311.25
6F	7.25	311.25
5F	7.25	311.25
4F	7.25	311.25
3F	7.25	311.25
2F	7.25	295.25
1F	7.25	401.94
合計	58.00	2295.19

容積率判定
 建築物全体面積 58.00 + 2295.19 = 2353.19 m²
 容積率不算入面積合計 58.00 m²
 容積率算定延べ面積 2353.19 - 58.00 = 2295.19 m²
 敷地面積合計 631.68 m²
 容積率 2295.19 / 631.68 = 363.35 %
 容積率限度 388.07 %
 容積率判定 363.35 < 388.07 OK

「申請以外の部分」がない場合は、0を入力します。
 「合計」のセルは、「申請以外の部分」のセルを編集すると自動的に数値が入ります。

5. 階の高さ 3.050 m

「階設定」の当該階の高さが入ります。
 ※ GLOBE の「オプション (CAD 環境)」にある「表記法設定」の「寸法」の「距離」の設定で丸めた値が連携します。
 ただし、申請書作成ツールでは m で小数第 3 までの表記になります。

階設定
 建物グループ: Default Group
 レベル: Default Group
 階数及び階高
 ベントハウス 1
 地上 7
 地下 0
 地下2小 0
 1FL = 設計GL + 100.00 mm
 設計GL: -320.00 mm
 CAD高さ: -320.00mm

階	階高	SL+FL高さ	梁天+SL高さ	ユーザーレベル	参照階	方位	敷地番号
R							
PH1	3000	30		設定なし	-		
7F	3050	30		設定なし	-		
6F	3050	30		設定なし	-		
5F	3050	30		設定なし	-		
4F	3050	30		設定なし	-		
3F	3050	30		設定なし	-		
2F	3500	30		設定なし	-		
1F	4300	50		設定なし	-		

「申請面積」の「延べ面積・容積率確認」の当該階の面積が入ります。

階	容積率不算入対象面積(m ²)	容積率対象面積(m ²)
R	0.00	0.00
PH1	7.25	41.75
7F	7.25	311.25
6F	7.25	311.25
5F	7.25	311.25
4F	7.25	311.25
3F	7.25	311.25
2F	7.25	295.25
1F	7.25	401.94
合計	58.00	2295.19

容積率判定
 建築物全体面積 58.00 + 2295.19 = 2353.19 m²
 容積率不算入面積合計 58.00 m²
 容積率算定延べ面積 2353.19 - 58.00 = 2295.19 m²
 敷地面積合計 631.68 m²
 容積率 2295.19 / 631.68 = 363.35 %
 容積率限度 388.07 %
 容積率判定 363.35 < 388.07 OK

3 申請提出後、内容に変更があった場合

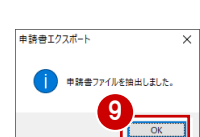
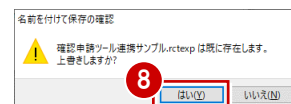
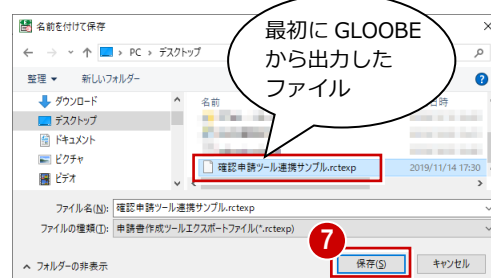
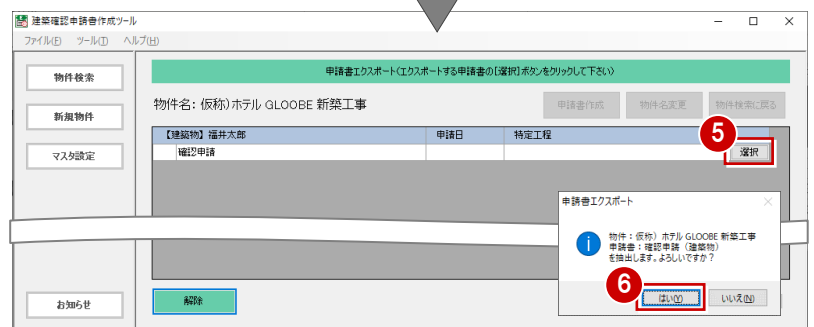
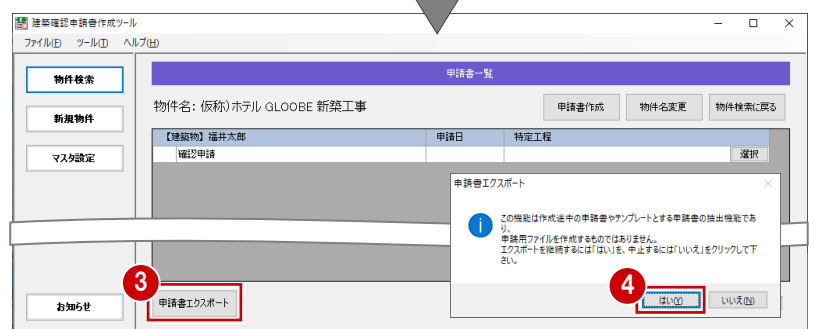
申請提出後に GLOOBE で変更があった場合は、再度、連携ファイルへ出力します。

このとき、確認申請書作成ツールで編集した状態を連携ファイルへエクスポートして、GLOOBE から出力するときにそのファイルを指定すると、編集した内容はそのまま残り、連動する項目のみ更新することができます。

申請書をエクスポートする

確認申請書作成ツールにて手入力で編集した状態を、連携ファイル (.rctexp) へエクスポートしておきます。

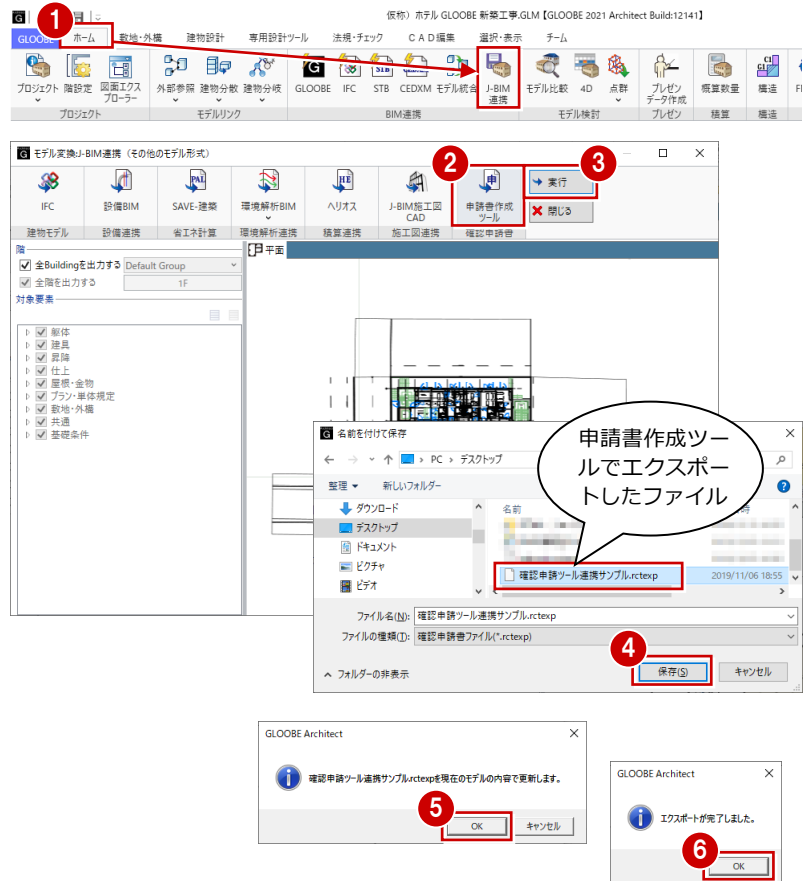
- ① 日本 ERI 申請書作成ツールのメニューから「建築確認申請」の「申請書作成ツール」をクリックします。
- ② 申請書をエクスポートする物件の「選択」をクリックします。
その物件の申請書一覧が表示されます。
- ③ 「申請書エクスポート」をクリックします。
- ④ 継続の確認画面で「はい」をクリックします。
- ⑤ エクスポートする申請書の「選択」をクリックします。
- ⑥ 開始の確認画面で「はい」をクリックします。
- ⑦ 最初に GLOOBE から出力したファイルを指定して、「保存」をクリックします。
- ⑧ 上書きの確認画面で「はい」をクリックします。
- ⑨ 完了の確認画面で「OK」をクリックします。



連携ファイルを更新する

GLOOBE で設計変更したモデルデータを開き、連携ファイルへ出力します。このとき、確認申請書作成ツールからエクスポートしたファイルに上書きで更新します。

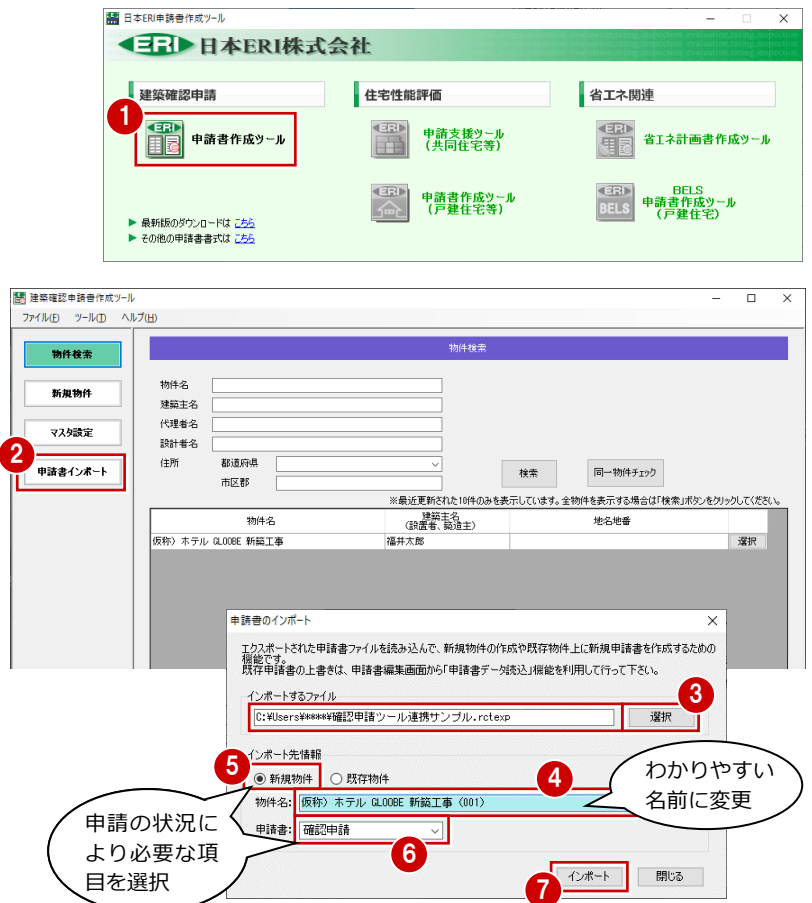
- 1 GLOOBE の「ホーム」タブをクリックして、「J-BIM 連携」を選びます。
- 2 「申請書作成ツール」をクリックします。
- 3 「実行」をクリックします。
- 4 確認申請書作成ツールでエクスポートしたファイルを指定して、「保存」をクリックします。
- 5 更新の確認画面で「OK」をクリックします。
- 6 完了の確認画面で「OK」をクリックします。



連携ファイルを読み込む

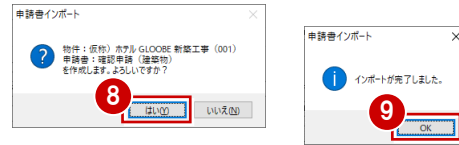
GLOOBE で更新した連携ファイルを、確認申請書作成ツールで読み込みます。

- 1 日本 ERI 申請書作成ツールのメニューから「建築確認申請」の「申請書作成ツール」をクリックします。
- 2 「申請書インポート」をクリックします。
- 3 「選択」をクリックして、GLOOBE から出力した連携ファイルを指定します。
- 4 「物件名」を確認・編集します。
- 5 6 申請の状況により必要な項目を選択してください。ここでは、「新規物件」「確認申請」で進めます。
- 7 「インポート」をクリックします。



3 申請提出後、内容に変更があった場合

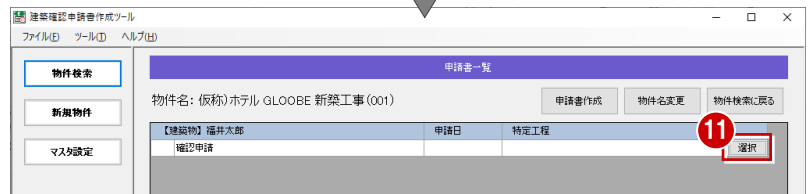
- 8 確認画面で「はい」をクリックします。
- 9 完了の確認画面で「OK」をクリックします。
物件一覧に追加されます。



- 10 申請書を作成する物件の「選択」をクリックします。
その物件の申請書一覧が表示されます。



- 11 確認・編集する申請書の「選択」をクリックします。
申請書の編集画面が開きます。



- 12 確認申請書の面を切り替えて確認します。
手入力で編集した内容はそのまま残り、連動する項目のみ更新されています。

